



2 みなとみらい

1 新宿



Shinjuku

早 稲田駅からわずか15分。日頃から訪れる学生は多いと思うが、今度は夜景を目的に行くのもいいかもしれない。まず向かったのは新宿高島屋。屋上のホワイトガーデンにはイルミネーションで光り輝く庭園が広がっていた。手の込んだ装飾が施され、庭園の横にあるレストランでは多くの人がその景色を楽しむ。高島屋を出て、パスタ新宿の方へ立ち寄ると、途中でNTTドコモ代々木ビルが綺麗に映える場所を見つけた。時間によって移り変わりをみせるその姿は、まさに新宿を代表するビルの一つといえるだろう。

新宿駅の近くを離れ、次に新宿野村ビルへ向かう。本企画の中で最も高い50階から見下ろした新宿の夜景には、思わず息を呑んだ。青いライトで圧倒的な存在感を放っていたのは新宿のシンボル・東京都庁。新宿のビル群は、それだけで東京の迫力を感じさせるものだった。



日 本でも有数の夜景名所、横浜みなとみらい。早稲田駅からは1時間超で乗り換えも多く、帰りが遅くなる可能性もあるので神奈川県寄りに住む学生におすすめだ。桜木町駅から出発し、街の中心部へと移動する。すると間もなく、ライトアップされた並木通りに大きな帆船・日本丸が現れた。よこはまコスモワールドの方に歩を進めると、手前の橋から綺麗な観覧車風景が見られる。撮影時に人影が映り込まない一押しスポットだ。コスモワールドの入口エリアを降りていくと開けたスペースがあり、そこからもビル群と明るい遊園地の様子を眺めることができる。さらに赤レンガ倉庫に向かう途中で、期間限定のイルミネーションを鑑賞。クリスマスカラーの装飾はドイツのマーケットを彷彿とさせる。もし時間に余裕があるのなら、最後に大さん橋に寄ってほしい。中心部では近すぎて被写体に入りきらなかったビル群も、ここなら一望できるはず。

大さん橋から望むみなとみらい中心部



みなとみらいの象徴・コスモワールドの入り口



横浜ランドマークのイルミネーション



取材時にはクリスマスマーケットが開催されていた



新宿住友ビルクリスマスツリー



歌舞伎町方面を望む大通り



新宿野村ビル50階の展望スペース

東京都庁(取材時は展望室が休室中だった)





5 浅草

スカイツリーを追いかけて押上方面へ。歩を進めるほどにその圧倒的な大きさが感じられる。取材日にはジャンパントリーをテーマに点灯されていた。見上げてもちろん綺麗だが、穴場スポット・十間橋にぜひ足を運んでほしい。なんとここでは水面に映る「逆さスカイツリー」が見られるのだ。「2本」のスカイツリーが夜に浮かび、普段とはまた違った美しさがよく映える。

浅草 草駅を出ると、すぐに隅田川に架かる吾妻橋に到着する。右手にはライトアップされた駒形橋と浅草情緒を感じさせる屋形船。都会的な背景とのコントラストが面白い。再び駅に戻って反対に進めばすぐに浅草の華、雷門が現れる。夜の雷門はその紅さがより際立って美しい。門をくぐり、昼間の喧騒とは違った雰囲気の見世通りを抜けると、目を惹くのは五重塔。本堂と相まってこれまた荘厳な空気を醸し出す。



asakusa

roppongi

3 六本木

早稲田 稲田から約25分の東京の高級ビル街、六本木。森ビルやテレビ朝日といった名だたる企業の本社がずらり。22時になっても残業の明かりは消えず、夜景を彩っている。

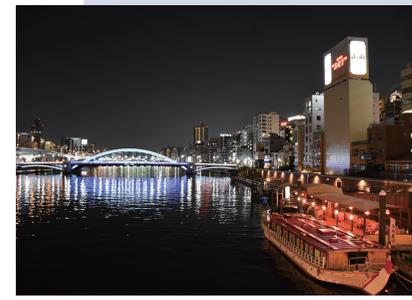
おすすめのスポットは六本木ヒルズ内のある橋。けやき坂に沿ったイルミネーションと東京タワーをなんともいいバランスで眺めることができる。押し寄せる人たちをかき分けてなんとか撮影。
そして我々はなんと穴場スポットを発見。六本木一丁目からしばらく歩いたところの交差点付近だ。ここでは写真の通り、ビルの合間から壮大な東京タワーを見ることが出来る。さらに、左手を見るとビルに反射したタワーが！ぜひ一度足を運んでみてほしい。



風情ゆたかな浅草寺本堂と五重塔



水に映ったスカイツリー(写真は上下反転したもの)



吾妻橋の欄干から隅田川を望む



東京ミッドタウンの裏には桜の木がざらり



ビルの合間から顔を出す東京タワー



けやき坂のイルミネーションは人気撮影スポット

早稲田

ざわざ電車で乗って夜景を観に行くななんて面倒くさいな！と思っているそのキミ！夜景は私たちが早大生が思っている以上に身近に存在していることをご存知だろうか？……そう、大学構内でも夜景を楽しむことは可能なのだ。大学施設の高いところに上れば、新宿や池袋といった都心のビル群はもちろん、東京タワーや東京スカイツリーまで拝むことができる。ただし、高層階は教授たちの研究室になっている場合も多く、「学生の立ち入りは18時まで」と定められているエリアもあるので注意が必要。本誌が発行される春シーズンは難しいかもしれないが、夜の長い冬場にこそ訪れてみるというだろう。

わ ざわざ電車で乗って夜景を観に行くななんて面倒くさいな！と思っているそのキミ！夜景は私たちが早大生が思っている以上に身近に存在していることをご存知だろうか？……そう、大学構内でも夜景を楽しむことは可能なのだ。大学施設の高いところに上れば、新宿や池袋といった都心のビル群はもちろん、東京タワーや東京スカイツリーまで拝むことができる。ただし、高層階は教授たちの研究室になっている場合も多く、「学生の立ち入りは18時まで」と定められているエリアもあるので注意が必要。本誌が発行される春シーズンは難しいかもしれないが、夜の長い冬場にこそ訪れてみるというだろう。

- 〈企画員おすすめの早稲田夜景スポット〉
- ・3号館(本キャン/政治経済学部)
 - ・11号館(本キャン/商学部・国際教養学部)
 - ・26号館(通称・大隈記念タワー)
 - ・33号館(文キャン/文学部・文化構想学部)

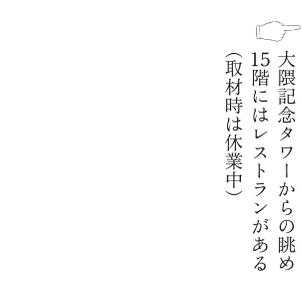
4 丸の内・銀座

皇 居に程近い首都東京のど真ん中。ライトアップされた行幸通りを抜ければ、昔の面影を残した東京駅の駅舎が目の前に。その向かい側に建つ丸ビルでは、5階のテラスで駅前広場を見下ろしながらデイナーを楽しめる。さらに35階まで上がれば、東京タワーやレインボーブリッジといった夜景を一望することが可能だ。

丸の内から日比谷方面を結ぶメインストリートには、エルメスやティファニーをはじめとした高級ブランドのショールームが立ち並ぶ。しかし大学生にそんなブランド品を買う余裕があるはずもなく、我々はそのまま有楽町へと移動。高架下の飲食街には仕事を終えたスーツ姿サラリーマンたちが集まっていた。おしゃれで上品な夜景と活気のある街並みをどちらも楽しめるのが、このエリアの特徴だ。



3号館から見下ろす大隈講堂奥に見えるのはスカイツリー



大隈記念タワーからの眺め15階にはレストランがある(取材時は休業中)



銀座のシンボル・和光本館



有楽町付近には赤ちょうちんが並ぶ



丸ビルから望む東京駅舎

marunouchi / ginza

夜景評論家に訊く 「夜景の魅力を伝える」ということ

本 企画が進行中の2021年11月19日、長崎で観光振興イベント「世界夜景サミット」が開催され、「世界新三大夜景」としてモナコ、長崎、上海の3都市が選出された。コロナ禍で苦戦を強いられている観光業にとって、夜景はどのような役割を果たしてきたのか。また、そもそも夜景の魅力とは何なのか。世界夜景サミットを主催した夜景観光コンベンション・ビューローの代表理事・丸々もとお氏にお話をうかがった。【取材日：12月20日】

——普段はどのようなお仕事をされているのでしょうか。

夜景は多くの業界に関係しているので、事業内容も多岐にわたっています。「三大夜景」の認定をはじめとしたブランディング事業、夜景を生かした観光業のお手伝いをするコンサルティング事業、イベントやイルミネーションのプロデュース事業などに取り組んでいます。たとえば、東京スカイツリーの上部のライトが最近フルカラー化されたのですが、あの部位のリニューアル事業にも携わりました。他にもCMや出版物を通じたメディアプロモーションや講演会など、幅広くこなっています。

——そうした夜景観光事業に取り組む中で、特に意識されていることは。

自治体などとお仕事をさせていただく場合、先方が観光事業に懸ける熱意があるかどうかを重視しています。観光は人間が居ること初めて成り立つ産業ですから。先方が真剣だと、こちらも自然と色々な

まざまな事業に手を出すようになった形です。昔はSNSがなく、発信手段は本やテレビに限られていたので、反応があった時の達成感もその分大きかったですね。

——私たち学生は、夜景をどのように楽しめばいいのでしょうか。

ただ漠然と夜景を観に行くだけではなく、「いま、自分がどんな夜景を観たいのか」という目的を持っておくとう面白いです。埠頭のエネルギーギッシユな光を浴びたいのか、夕暮れ時に優しい光で癒されたいのか、はたまた工場夜景でインスピレーションを刺激したいのか……。逆に、夜景を観に行くことで自分の精神状態が分かってくることもあります。目を瞑って、聴覚や嗅覚といった五感で楽しんでみたり……。人生の半分は夜ですから、スマホやパソコンと睨めっこしているだけではもったいないですよ。



丸々 もとお
まるまる・もとお

一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事。日本で唯一の「夜景評論家」として50冊以上の著書を執筆しながら、長年にわたって夜景観光ビジネスに携わっている。

MOTOKO MARUMARU

アイデアが出てきます。一方、マンネリに陥らないために、なるべく同じ相手と惰性的な付き合いをしないようにしています。もちろん夜景サミットのように定期的に続けている事業もあるので、継続すべき仕事とそうでない仕事は取捨選択していますね。

——コロナ禍による影響はあったのでしょうか。

イベント関係がほとんど無くなったのは事実ですが、会社として特別苦労したというわけではありません。アフターコロナを見据えた打ち合わせや会議はリモートでも可能でした。むしろ、世界夜景サミットのようなグローバル事業に関しては進展した部分もあります。それまで常に忙しかった観光業界の手が休まっていたため、耳を傾けてくれたんですね。世界中が大変だからこそ、世界と対話する機会が新たに生まれたのだと思っています。

——そもそも、このお仕事を始められたきっかけは。

夜景に最初に魅了されたのは小学生の時です。学生時代には夜景を探し求めて徘徊していました。当初はそうやって自分だけで楽しむ「マニア」だったのが、徐々に発信して人を喜ばせる「メディア」になっていきました。最初は出版から始まり、夜景の魅力を伝えるためにさ

それに、夜景はあらゆる学問と繋がっています。経済を専攻しているならビジネスと結び付けられますし、心理学を勉強しているなら「愛の告白に成功しやすい夜景」を研究するのもいいでしょう。自分の興味のある視点から夜景を深掘りしていけば、自分だけの「夜景学」を身につけられると思います。

「取材後記」

〈企画員A〉 「マニアからメディアへ」というフレーズが印象に残った。自分の好きなモノの魅力を伝えるのは意外に難しいと思う。取材中にも丸々さんは、窓の外の夜景を指差して「照明のデザインを見るに、あの3つのビルは全く違う時代に建てられていますね」と即座に分析してくださった。自分もいつか、夜景を見ただけでこういう評論ができる人になりたい……。

〈企画員B〉 「ビルの見方で、性格が表れるんですね。高いビルを見上げて、自分も負けてられないって思う人ならうまくいきますよ。多くの人は圧倒されてしまうだけなんです」という言葉が刺さった。大隈講堂を見上げて決意を固めたあの日。がむしゃらに奮闘した日々を思い出した。そしてそれからたったの一年でこんな野郎になり下がったのが悲しい。